

# 春日井市地域公共交通計画 ー 概要版 ー

## 計画の概要

### ▶ 計画策定の目的

現在、本市では、高齢化の進行や今後予測される人口減少社会の到来に対応するため、鉄道駅などを中心として自動車に過度に依存しなくても快適に暮らせる都市構造を目指す中で、多様な交通手段が効果的に連携した、持続可能な公共交通網の確保が求められています。

こうした背景を踏まえ、本市の公共交通に関連する多様な主体が一体となった公共交通サービスを実現するため、春日井市地域公共交通計画を策定しています。

### ▶ 計画の区域

春日井市全域

### ▶ 計画期間

2021年度（令和3年度）から  
2025年度（令和7年度）の5年間

## 基本理念と目標

今後の社会構造の変化に対応した持続可能な「ライフタウン」を構築するため、新しい技術を利用した公共交通の実現を目指し、基本理念と目標を次のとおり設定します。

### ▶ 基本理念

**心地よくつながる公共交通網**  
～ より暮らしやすい“ライフタウン”春日井へ ～

### ▶ 計画の目標

目標	評価指標		現況値と目標値(2025年度)	
	評価指標	現況値	目標値	
目標1 鉄道とバスによる利便性の高い公共交通網の形成	1 乗降客数 3,000 人/日以上の駅のバリアフリー化率	66% (2019年)	100%	
	2 市内バスの年間利用者数	5,403 千人 (2019年)	5,415 千人	
目標2 多様な交通の組み合わせによる市民の移動手段の確保	3 公共交通の人口カバー率	93% (2019年)	95%	
	4 公共交通の高齢者人口カバー率	83% (2019年)	85%	
	5 シティバスの収支率	23% (2019年)	23%	
	6 交通の利便に対する満足度	2.53 (2016年)	2.80	
	7 地域に即した新しい移動手段の実施数	0件 (2020年)	5件	
目標3 みんなで支える公共交通の体制づくり	8 バスを利用した市民の割合	28% (2017年)	31%	
	9 バスを利用した高齢者の割合	29% (2017年)	35%	

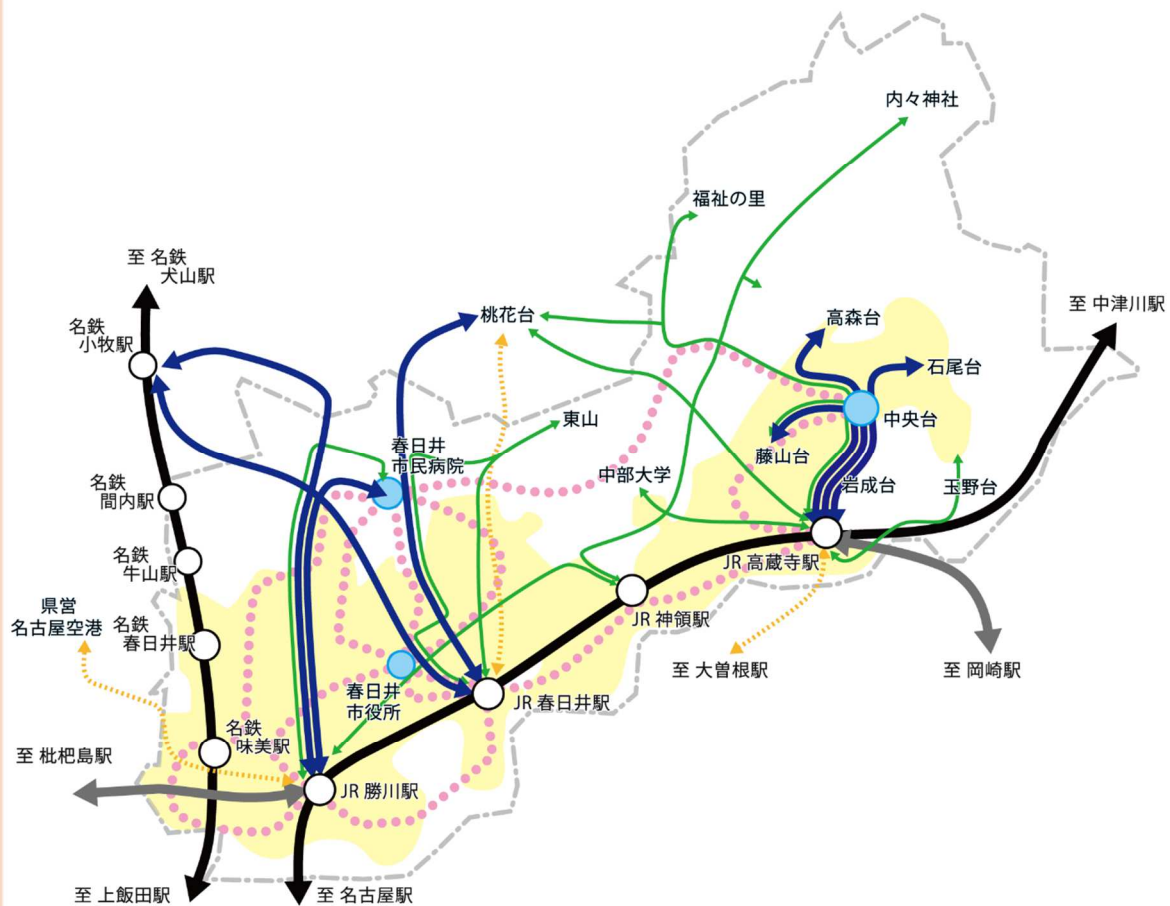
## 将来の主な公共交通体系

関係者の連携の下、鉄道とバスが一体となった利便性の高い公共交通を維持するとともに、多様な交通の組み合わせによる市民の移動手段を継続的に確保していくため、以下に示す階層的なネットワークと交通拠点的形成します。

これに加え、地域内の需要に応じた手段による地域生活交通やタクシー、民間自主運行バス、福祉有償運送などによりネットワークを補完します。

これらの取組みにより、春日井市立地適正化計画でも掲げている、公共交通を利用して生活できる都市構造を目指します。

春日井市の将来の主な公共交通体系（ネットワークと交通拠点）



凡 例







(公共交通体系を構成する路線)

	基幹路線		都市間連絡バス路線
	準基幹路線		地域生活バス路線
	基幹的なバス路線		主な駅
	地域間連絡バス路線		主なバス停

(立地適正化計画より)

	居住誘導区域
--	--------

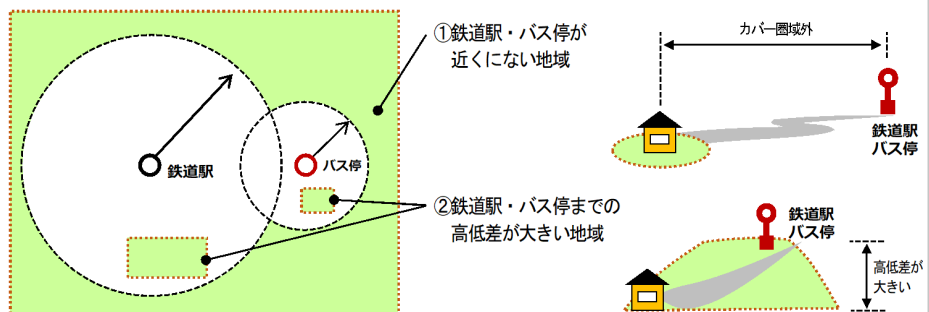
【 将来の公共交通体系の形成方針 】

区分	役割・サービス確保の考え方	対象交通手段
鉄道	<b>基幹路線</b>  <b>役割</b> 本市の最も重要な公共交通軸として、拠点間や名古屋市方面をはじめとした周辺都市の中心部を接続する。 <b>サービス水準</b> 高頻度・長時間の運行により、通勤、通学、通院、買い物などの多様な目的に対応する。	J R 中央本線 名鉄小牧線
	<b>準基幹路線</b>  <b>役割</b> 基幹路線と一体となって、周辺都市を接続する。 <b>サービス水準</b> 需要に応じて可能な限り高頻度・長時間で運行する。	愛知環状鉄道 T K J 城北線
路線バス	<b>基幹的なバス路線</b>  <b>役割</b> J R 勝川駅・J R 春日井駅・J R 高蔵寺駅と主な都市施設や居住地、隣接市の拠点となる地域を連絡する。通勤、通学、通院、買い物などの多様な目的の移動の利便性を確保する。 <b>サービス水準</b> 現状のサービス水準を基本とし、以下の水準を確保する。 (運行便数) ピーク時：2～3便/時間・片方向以上 オフピーク時：1便/時間・片方向以上 (運行時間) 7時前後～22時前後まで	名鉄バス 高蔵寺ニュータウン線(高蔵寺ニュータウン内の区間)、春日井・桃花台線、春日井市内線、春日井市民病院線(勝川駅発着)、小牧・勝川線
	<b>地域間連絡バス路線</b>  <b>役割</b> J R 勝川駅・J R 春日井駅・J R 神領駅・J R 高蔵寺駅と市内の主な都市施設や、市内外の主な居住地を連絡する。通勤、通学、通院、買い物などの目的となる施設などでの需要に対応する。 <b>サービス水準</b> 現状のサービス水準を基本とし、以下の水準を確保する。 (運行便数) ピーク時：2便/時間・片方向程度 オフピーク時：1便/2時間・片方向以上 (運行時間) 目的となる施設などでの需要に対応	上記以外の名鉄バス路線
	<b>都市間連絡バス路線</b>  <b>役割</b> 主に隣接市にある拠点となる地域や施設と、J R 勝川駅・J R 春日井駅・J R 高蔵寺駅を連絡する。 <b>サービス水準</b> 現在のサービス水準を基本とし、需要に応じて可能な限り高頻度・長時間運行する。	あおい交通 名古屋市営バス
<b>地域生活バス路線</b> 	<b>役割</b> 路線バスを補完し、市内の居住地と春日井市民病院や市役所、主な商業施設などを連絡する。 <b>サービス水準</b> 需要に対して必要最小限のサービスを確保する。	かすがいシティバス

【 ネットワークを補完する交通手段 】

区分	役割・サービス確保の考え方	対象交通手段
地域生活交通	<b>役割</b> 路線バスや地域生活バス路線を補完し、地域内の商業施設や医療施設などへの移動手段となる。 <b>サービス水準</b> 地域内の需要及び今後の地域づくりの方向性に対して、効率性に配慮しながら必要な交通手段やサービスを確保する。	地域内の需要に応じた手段による公共交通
タクシー	<b>役割</b> 上記の手段では対応することが困難な個別輸送にきめ細かく対応する。 <b>サービス水準</b> 個別の需要に対応したサービスを確保する。	春日井タクシー、近鉄東美タクシー、東鉄タクシー、名鉄西部交通北部、尾張交通
その他交通手段	<b>役割</b> 他の交通手段との機能分担に配慮し、特定の目的に対応する。 <b>サービス水準</b> 個別目的の需要に対して、効率性に配慮しながら必要な交通手段やサービスを確保する。	サンマルシェ循環バス、福祉有償運送等

地域生活交通を検討するエリアのイメージ



# 施策

基本理念の「心地よくつながる公共交通網 ～より暮らしやすい“ライフタウン”春日井へ～」の実現を目指し、関係者が連携して以下の施策を実施します。

## 目標 1

### 鉄道とバスによる利便性の高い公共交通網の形成

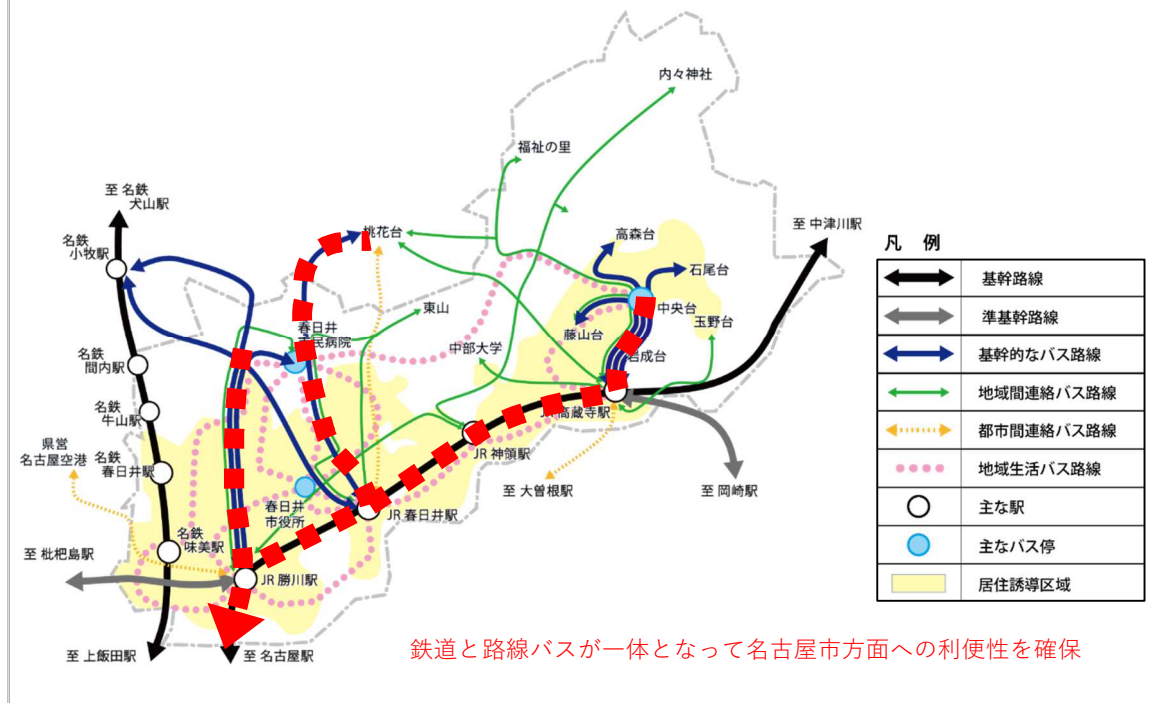
#### 1 駅及び駅前広場の整備・バリアフリー化

- ❖ JR高蔵寺駅北口周辺の再編整備、南口周辺や地下道空間の改善
- ❖ 名鉄春日井駅のバリアフリー化の促進
- ❖ 名鉄春日井駅の安全な歩行空間や駐輪場、駅前広場の整備と、視覚障害者誘導用ブロックや屋根の設置の検討

#### 2 路線バスサービスの維持・支援

- ❖ 路線バスの現在のサービス水準の維持・改善
- ❖ 春日井市立地適正化計画に基づく居住の誘導や都市機能誘導区域内への誘導施設の立地
- ❖ 鉄道のダイヤが変更された際の、路線バスのダイヤの見直し

名古屋市方面への鉄道と路線バスの連携イメージ



#### 3 バス待ち環境の改善

- ❖ 新たなベンチや屋根、運行情報の案内の整備などによる待合い環境の向上



目標  
3

## みんなで支える公共交通の体制づくり

### 1 料金割引制度の拡充・周知

- ❖ 多様なツールを活用した乗継ぎ割引などのサービスについての情報提供
- ❖ 高齢者などの外出を支援する制度の適用可能な移手段の拡充

### 2 交通事業者の運営支援（運転手の確保）

- ❖ 地元出身者や女性運転手の活躍状況のPRなど、バスやタクシー事業の魅力の周知
- ❖ 運転手補助ボランティアの検討

### 3 バスやタクシーの利用意識を醸成させるイベントの実施

- ❖ 小中学生や高齢者を対象としたイベントの実施
- ❖ ノーカーデーの実施やモビリティマネジメントなどの啓発活動の検討

### 4 多様なツールによる運行情報の周知・改善

- ❖ 誰もが公共交通の運行情報を簡単に入手できる、多様なツールを活用した情報発信
- ❖ かすがいシティバスの運行情報の標準的な静的バス情報フォーマット（GTF S-JP）の整備

### 5 交通手段間のシームレスな乗継ぎの支援

- ❖ 異なる交通手段やかすがいシティバスの路線間の乗継ぎに対する料金割引などの制度拡充やダイヤ改善の検討
- ❖ 複数の公共交通手段を包括した経路検索・予約・運賃決済など、情報通信技術を活用した新たな仕組みの導入の検討

### 6 地域で公共交通を支える制度・体制づくり

- ❖ 地域の公共交通の課題や今後のあり方について、地域住民を主体とした検討会の創出
- ❖ バス停周辺の民間事業者と連携したバス停周辺の環境改善などに取り組む体制づくり
- ❖ バス停、ベンチなどのネーミングライツ化の検討

#### バスの利用意識を醸成させるイベントの事例

○バスの乗り方教室（名鉄バス株）



資料：名鉄バスホームページ・名鉄バス

#### 運行情報・利用効果の周知情報

○春日井バスロケ



資料：春日井市ホームページ

